

東日本大震災:子どもを守る組織として議論を 大川小・犠牲者遺族の佐藤さん 石巻市議に活動報告 /宮城

毎日新聞 2014年11月20日 地方版

東日本大震災の津波で児童74人が犠牲となった石巻市立大川小の悲劇を繰り返さないよう、遺族の佐藤敏郎さん（51）が設立した「小さな命の意味を考える会」が18日夜、石巻市議を対象に、初めての活動報告会を開いた。参加した市議5人に、佐藤さんは「子どもを助けられなかった事実と向き合い、学校が子どもを守る組織としてどうだったか議論すべきだ」と、検証を続ける必要性を訴えた。

東松島市立中教諭の佐藤さんは、震災で当時大川小6年生だった次女みずほさんを亡くした。2013年11月に会を設立し、第三者検証委の検証過程に対する考えをホームページで発信し他の遺族と県外で講演もしている。

佐藤さんは報告会で、震災後、助かった児童の聞き取りメモを廃棄するなど無責任な対応を取った市教委や、その組織の体質に踏み込まなかった検証委の問題点を指摘。「津波が来た時、（学校にいた）先生たちはどんなに後悔したことか。先生も死んだのだからそっとしておけというのは絶対間違いで、犠牲を無駄にしないためにも議論すべきだ」と力を込めた。

参加した高橋憲悦市議（無所属）は「石巻市が前に進むためにも、大川小のことを中途半端なままにははいけない。議会で学校の組織のあり方について質問していきたい」と話した。【百武信幸】

毎日新聞のニュースサイトに掲載の記事・写真・図表など無断転載を禁止します。著作権は毎日新聞社またはその情報提供者に属します。

Copyright THE MAINICHI NEWSPAPERS. All rights reserved.